

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	工学課程	夜・通信		70	42	112	13	
	機械創造工学課程	夜・通信		12	10	22	13	
	電気電子情報工学課程	夜・通信		12	8	20	13	
	物質材料工学課程	夜・通信		12	8	20	13	
	環境社会基盤工学課程	夜・通信		12	18	30	13	
	生物機能工学課程	夜・通信		12	14	26	13	
	情報・経営システム工学課程	夜・通信		12	18	30	13	
(備考) 上記学科名欄に記載の「工学課程」は学部改組による新課程であり、令和4年度が1年目である。機械創造工学課程から情報・経営システム工学課程までの6課程は旧課程となる。なお、工学課程の単位は、同課程内に設置された5つの分野(機械工学分野、電気電子情報工学分野、情報・経営システム工学分野、物質生物工学分野及び環境社会基盤工学分野)において開講している共通科目と専門科目の合計を示している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/youshiki/gakumu/index.files/r05jitsumukeikenjugyo.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページ：
<https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/gakucyo/yakuin.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日	経営戦略・社会貢献 担当
(備考) 国立大学法人法別表で定める理事の員数が3名であるため、学外者である理事は1名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)作成年間スケジュール 11月 カリキュラム管理部会より、各系へ次年度シラバス作成依頼 科目担当教員シラバス作成・改訂等作業 各系におけるシラバスチェック実施 各系よりカリキュラム管理部会へシラバスチェック実施報告 12月～1月 科目担当教員による教務システムへのシラバス入力 3月 大学ホームページ上で次年度シラバス公開 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>大学ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/jyugyou_kamoku/jyugyou_kamoku.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 原則として、その授業の終了する学期末に試験を実施して、学修成果を評価している。ただし、担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、随時試験をもって試験に代えることがある。また、授業科目によっては、平常の成績又はレポート等をもって試験に代えることがある。各科目の詳細な成績の評価方法と評価項目については、シラバスに示している。 (2) 履修申告が行われていない科目の試験を受けることは不可としている。 (3) 学期末の試験をはじめ、すべて試験における不正行為を禁止し、不正行為を行った者については懲戒するとともに、履修上の処罰も課している。 (4) 出欠システムにより学生の学修意欲を把握し、必要に応じて個別に指導を行っている。 	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学習到達度を総合的に判断するために指標及び国際的な成績評価スキームに適合させるためにGPA (Grade Point Average) を導入し、履修案内上で下記の事項を公開している。

- (1) 履修科目の評価は、授業中の成績、試験の成績又はその両者によって行われる。
- (2) 成績はS、A、B、C及びDの評語 (Gradeを示す) で表され、それぞれ次の意味と対応する。

成績	意味	点数	GP
S	科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている	90点～100点	4
A	科目の目標を十分に達成している	80点～89点	3
B	科目の目標を達成している	70点～79点	2
C	科目の目標を最低限達成している	60点～69点	1
D	科目の目標を達成していない	0点～59点	0

※GPとは成績 (Grade) に対応づけた Point のこと

S、A、B、Cの評価を得たものを合格とし、単位を授与する。

なお、特別な授業科目については、S、A、B、Cの評価に代えて、合格を示すGで表すことがある。

- (3) 既修得単位の取消し及び既修得単位の成績を再履修によって更新することはできない。
- (4) GPAは、合格、不合格に関わらず全履修科目のGPの単位数による重み付け平均値により算出する。ただし、卒業要件に関係しない科目は、この計算から除外される。なお、受講を途中放棄した科目及び試験等を受験しなかった科目の単位数もGPA算出の母数に含め、計算上「0点」として扱う。GPAは小数点以下二桁まで表示する。

客観的な指標の算出方法の公表方法

大学ホームページ (以下 URL の「履修案内」中の「7. 成績の評価と単位の授与」に記載) :
https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/jyugyou_risyuu.html

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○ディプロマポリシー</p> <p>本学が目指す人材育成像は、情報技術を活用し、グローバルな技術展開のできる高度な実践的・創造的能力を備えた指導的技術者・研究者です。そのために、学士課程では以下の四項目を、教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門科目、及び課外活動を含む大学内外での幅広い学修により身につける学生の到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術を支えるデータサイエンスを含む理数の概念と技法の習得、及び技術の側から生命、人間及び社会を捉える素養の形成。 2. 理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力の習得、及び安全・環境・文化への技術の影響を配慮できる素養の形成。 3. 技術科学各分野の専門の基礎知識と技能、及び情報技術を使いこなす能力の習得。 4. 英語による技術コミュニケーション基礎力の習得、及び国際感覚を持ちチームで協働できる素養の形成。 <p>この目標のために開講される講義、演習、実験・実習科目、及び実務訓練を履修し、卒業に必要な単位数を修得した者に学士号が授与されます。</p> <p>○卒業の要件</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学部卒業に必要な要件は学則第 46 条に示されているが、この中で修得すべき単位については、分野ごとに更に詳細な基準が設けられており、履修案内中に「卒業の要件」として示している。(学部履修案内 卒業の基準 別表Ⅱ参照) 学則及び別表Ⅱについては、下記 URL で公表している履修案内に記載している。 https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/jyugyou_risyuu.html (2) 第 1 学年入学者については、別表Ⅱ「卒業要件単位数」欄の単位数が卒業に必要な本学で修得すべき最小の単位数である。 (3) 第 3 学年入学者については、別表Ⅱ「第 3 学年入学者の取扱い」欄のとおり既修と認められる標準の単位数があるので、「本学で修得すべき最小の単位数」欄の単位数が第 3 学年入学者の卒業に必要な最小の標準的な単位数である。詳細は各課程の履修案内のとおり。 (4) 別表Ⅱの()内の数字は、教育課程表で示した必修科目の単位数であり、この数を差し引いた数値が、選択科目から修得すべき最小の単位数となる。なお、選択科目は、都合により開講されないこともあるので、余裕のある履修計画を立てることが望ましい。 (5) 教職課程科目の修得単位については、卒業要件の単位として取り扱わない。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/hongaku_kyoiku/diploma_policy/bachelor_diploma.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/zaimu_jyoho/zaimu.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	—
事業報告書	大学ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/zaimu_jyoho/zaimu.html
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称： 公表方法：	対象年度：)
中長期計画(名称：第4期中期計画 公表方法：	対象年度：2022～2027年度)
https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/keikaku/index_cyuuki.files/4_9_keikaku.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/keikaku/gaibu/gaibuhyouka.files/gaibu_hyokasyo2018-2019.pdf https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/keikaku/gaibu/gaibuhyouka.files/gaibu_jikohyoka.pdf2018-2019.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法： https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/keikaku/hyouka_ninsyou.files/houkokusyo_r1_r5tuiki.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/jyoho/jyohokoukai/kyouikujoyouhou.html ）
（概要） 本学の最も重要な使命は、新しい学問・技術を創り出すとともに独創的な能力のある人材を養成することにある。この使命を果たすために、本学は技学－技術科学－に関する実践的・創造的能力の啓発、それによる“独創力の増強”を教育研究の基本理念とし、常に“考え出す大学”であり続ける。この考え方のもとに、本学は技学を先導する教育研究の世界拠点として、イノベーション創出を担う実践的・創造的能力と持続可能な社会の実現に貢献する志を備えた指導的技術者を養成する、地域社会及びグローバル社会に不可欠な大学を目指す。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/hongaku_kyoiku/diplomapolicy/bachelor_diploma.html ）
（概要） ○ディプロマポリシー 本学が目指す人材育成像は、情報技術を活用し、グローバルな技術展開のできる高度な実践的・創造的能力を備えた指導的技術者・研究者です。そのために、学士課程では以下の四項目を、教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門科目、及び課外活動を含む大学内外での幅広い学修により身につける学生の到達目標とします。 1. 技術を支えるデータサイエンスを含む理数の概念と技法の習得、及び技術の側から生命、人間及び社会を捉える素養の形成。 2. 理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力の習得、及び安全・環境・文化への技術の影響を配慮できる素養の形成。 3. 技術科学各分野の専門の基礎知識と技能、及び情報技術を使いこなす能力の習得。 4. 英語による技術コミュニケーション基礎力の習得、及び国際感覚を持ちチームで協働できる素養の形成。 この目標のために開講される講義、演習、実験・実習科目、及び実務訓練を履修し、卒業に必要な単位数を修得した者に学士号が授与されます。 ○卒業の要件 (1) 学部卒業に必要な要件は学則第 46 条に示されているが、この中で修得すべき単位については、分野ごとに更に詳細な基準が設けられており、履修案内中に「卒業の要件」として示している。（学部履修案内 卒業の基準 別表Ⅱ参照） 学則及び別表Ⅱについては、下記 URL で公表している履修案内に記載している。 https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/jyugyou_risyuu.html (2) 第 1 学年入学者については、別表Ⅱ「卒業要件単位数」欄の単位数が卒業に必要な本学で修得すべき最小の単位数である。 (3) 第 3 学年入学者については、別表Ⅱ「第 3 学年入学者の取扱い」欄のとおり既修と認められる標準の単位数があるので、「本学で修得すべき最小の単位数」欄の単位数が第 3 学年入学者の卒業に必要な最小の標準的な単位数である。詳細は各課程

の履修案内のとおり。

(4) 別表Ⅱの()内の数字は、教育課程表で示した必修科目の単位数であり、この数を差し引いた数値が、選択科目から修得すべき最小の単位数となる。なお、選択科目は、都合により開講されないこともあるので、余裕のある履修計画を立てることが望ましい。

(5) 教職課程科目の修得単位については、卒業要件の単位として取り扱わない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/hongaku_kyoiku/curriculum_policy/bachelor_curriculum.html)

(概要)

本学では、情報技術を活用し、グローバルな技術展開のできる高度な実践的・創造的能力を備えた指導的技術者・研究者の育成を目指し、学士課程では、講義、演習、実験・実習科目より構成される教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門科目による幅広い学修を通じて、以下の五を習得できる教育プログラムを実施します。

1. 技術を支えるデータサイエンスを含む理数の概念と技法、及び技術の側から生命、人間及び社会を捉える素養。
2. 理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力の習得、及び安全・環境・文化への技術の影響を配慮できる素養。
3. 技術科学各分野の専門の基礎知識と技能、及び情報技術を使いこなす能力。
4. 英語による技術コミュニケーション基礎力、及び国際感覚を持ちチームで協働できる素養。

さらに以上の四項目の総合的な実践ならびに学士課程における学修の総括を目的として、実務訓練を実施します。

なお、成績評価は、シラバスに明示される達成目標や基準等に従って公正に行われます。

「学修成果の評価の方針」

情報技術を活用し、グローバルな技術展開のできる高度な実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を育成するために、学修成果の評価は、「技術を支える理数の概念と技法」、「技術の側から生命、人間及び社会を捉える素養」、「理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力」及び「安全・環境・文化への技術の影響を配慮できる素養」の獲得を主たる目標とする講義科目では、試験、レポート等でその達成度を評価し、「技術科学各分野の専門の基礎知識と技能を使いこなす能力」、「英語による技術コミュニケーション基礎力」及び「国際感覚を持ちチームで協働できる素養」の獲得を主たる目標とする演習・実験・実習科目では、レポート、口頭試験等でその達成度を評価する。授業科目の試験の成績は、S・A・B・C及びDの5種類の評語をもって表し、S・A・B及びCを合格とし、Dを不合格とする。合格した者には所定の単位を授与する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.nagaokaut.ac.jp/nyuushi/admicpolicy/kougakubu/admicpolicy_b1.html)

(概要)

長岡技術科学大学は、活力 (Vitality)、独創力 (Originality) 及び世のための奉仕 (Services) を重んじる VOS の精神をモットーとし、グローバルな技術展開のできる高度な実践的・創造的能力を備えた指導的技術者・研究者の養成を目指している。この目的を達成するために、本学はすべての学部入学者に対し、大学院進学を前提とした学部から大学院までの一貫教育を行っている。

そこで、本学は入学を希望する学生に対し、次のような能力と資質を求める。

- ・ 技術や科学に強い関心を持ち、それにかかわる学習に必要な基礎学力をもつ人

- ・知識をもとに思考を深め、それにより判断したことを適切に表現できる人
- ・データサイエンス、IoT 等の情報技術の素養を身につけるとともに複数の分野を学んで分野融合技術を開拓する意欲のある人
- ・新しい分野の開拓や理論の創出、ものづくりに意欲をもち、技術や科学を通じて社会に貢献したい人
- ・自ら積極的に学習や研究に取り組み、問題解決のために多様な人々と協力できる人
- ・優れた個性を発揮し、人間性が豊かで、責任感のある誠実な人

本学は学生に求める能力・資質を以下の方法で評価する。

【学校推薦型選抜】

- ・調査書・推薦書により、高校時代の学習・活動歴、及び学力を評価
- ・小論文により、知識をもとにした思考力・判断力・表現力を評価
- ・志望調書・推薦書と面接により、人物・適性、及び基礎学力を評価

【一般選抜（前期日程）】

- ・大学入学共通テストにより、基礎学力を幅広く評価
- ・個別学力検査により、数学と理科のより高度な学力、及び思考力・判断力・表現力を評価
- ・志望調書と調査書により、人物・適正を評価

このほか、各分野において「求める学生像」、「入学までに履修が望まれる教科・科目等」を求めている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/jyoho/jyohokoukai/kyouikujoyouhou.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	7人	—					7人
工学部	—	48人	64人	7人	37人	1人	157人
大学院	—	19人	13人	1人	7人	0人	40人
その他	—	0人	1人	4人	0人	0人	5人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
1人				215人			216人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://souran.nagaokaut.ac.jp/index.jsp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育方法開発センターを設置し、授業及び研究指導の内容や方法の改善を図るために全学的なFDとして、FD講演会、公開授業、授業スキルアップ研修会、授業アンケート等を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	80人	88人	110.0%	940人	1,083人	115.2%	310人	331人
合計	80人	88人	110.0%	940人	1,083人	115.2%	310人	331人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	445人 (100%)	364人 (81.8%)	62人 (13.9%)	19人 (4.3%)
合計	445人 (100%)	364人 (81.8%)	62人 (13.9%)	19人 (4.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先：長岡技術科学大学 主な就職先：農林水産省水産庁、凸版印刷（株）、東日本旅客鉄道（株）、日本精機（株）、 楽天グループ（株）、ダイハツ工業（株）、シャープ（株）				
(備考)				
本学は、大学院修士課程までの一貫教育行っており、卒業生の進路では本学大学院進学者が8割以上となっている				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	86人 (100%)	74人 (86.0%)	3人 (10.5%)	9人 (3.5%)	0人 (%)
合計	86人 (100%)	74人 (86.0%)	3人 (10.5%)	9人 (3.5%)	0人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>○授業科目は、下記 URL を参照すること。 https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/jyugyou_risyuu.html 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行われる。</p> <p>○授業計画（シラバス）は、下記 URL を参照すること。 https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/jyugyou_kamoku/jyugyou_kamoku.html</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>原則として、その授業の終了する学期末に試験を実施して、学修成果を評価している。ただし、担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、随時試験をもって試験に代えることがある。また、授業科目によっては、平常の成績又はレポート等をもって試験に代えることがある。学生へは、各科目のシラバスにおいて詳細な成績の評価方法と評価項目を示している。 詳しくは、下記 URL のとおり https://www.nagaokaut.ac.jp/kyoiku/jyugyou/jyugyou_kamoku/jyugyou_kamoku.html</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	機械創造工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	電気電子情報工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	物質材料工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位

	環境社会基盤工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	生物機能工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	情報・経営システム工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

※学科名欄に記載の「工学課程」は学部改組による新課程であり、令和 4 年度が 1 年目である。また、機械創造工学課程から情報・経営システム工学課程までの 6 課程は旧課程である。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/jyoho/jyohokoukai/kyouikujoyouhou.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	全課程	535,800 円	282,000 円	—	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>「クラス担当教員」、「アドバイザー教員」を設置し、修学をはじめとする相談に対応している。</p> <p>入学前に高校や高専等で受けた教育内容の違いから、入学後に授業についていくのが難しく、基礎学力が不足していると自覚する学生や学力への不安を抱える学生に対して、大学院修士課程または博士課程の先輩が学修の支援を行う「学習サポーター制度」を設けている。</p> <p>また、日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者又はその他の入学者に対し入学金及び前期分授業料等の徴収を入学後まで猶予する取組を実施しており、入学手続き期間中に本学が指定する申請に必要な手続きを行うことを条件に、前者は7月の結果通知までの間、徴収を猶予され、全額免除以外の結果通知を受けた者は、入学金は告知日から14日以内、授業料は通知日から30日以内に納入する。後者は、入学金の場合、5月の結果通知までの間、徴収を猶予され、全額免除以外の結果通知を受けた者は、入学金は告知日から14日以内に納入する。授業料の場合は、前者と同様である。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>例年、就職活動を始める学生のために「就職ガイダンス（11回）」「留学生就職ガイダンス（2回）」「就職セミナー（4回）」「模擬面接（10回）」「留学生模擬面接（1回）」「合同企業研究会（対面3日間、オンライン4日間）」を開催している。この他に、女子学生向けにキャリアガイダンス（1回）、低学年（学部1年生、2年生）向けにキャリアガイダンス（3回）、就職活動中の学生のための就職セミナー（1回）、全学年向けのキャリアセミナー（1回）、ハローワーク長岡のジョブサポーターおよび就職支援企業による進路・就職相談を開催し、事前にしっかりと準備し、安心して就職活動ができるように支援している。（回数は昨年度実績）また、各課程に就職担当教員を配置し事務局の就職担当係と連携して、きめ細やかな就職支援を行えるよう体制を整えている。</p> <p>今年度についても上記同様の支援を計画している。</p> <p>なお、令和5年度よりガイダンス等を対面中心にて開催していく予定である。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生支援担当副学長をセンター長とする学生総合支援センターの中に、学生なんでも相談窓口」及び「障がい学生支援窓口」として設けて、専門スタッフ(キャンパスソーシャルワーカー、学生総合支援アドバイザー及び支援コーディネーター)が中心となり、関係教員等と連携しながら学生の相談等にきめ細やかに対応し、体育・保健センターのカウンセラーとも関わりながら学生生活を安心して過ごすことができるように心身の健康等に係る支援を行っている。</p> <p>また、体育・保健センターにおいては、学校医、保健師、カウンセラーを配し、定期健康診断の実施など保健管理等を行うとともに同センター内に設置した「カウンセリングルーム」において、身体的な健康相談及びメンタルヘルスに関する相談など、学生生活全般</p>

にわたっての悩みごとについての相談を受け、学生の心身の健康等のケアを行っている。

さらに、クラス担当教員、指導教員、学部の各課程の教員による「アドバイザー教員」の制度に加え、大学院の各専攻の教員による「大学院学生のためのアドバイザー教員制度」を設置している。この制度は、学生を孤立させることがなくなる環境を構築することを目的とし、アドバイザー教員からカウンセラーに繋げるよう連携を図るものである。

このように、多方面のチャンネルから学生の悩みをキャッチし、対応することで心身のケアを行うことができるよう体制を構築し、学生の心身の健康等に係る支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

<https://www.nagaokaut.ac.jp/annai/jyoho/jyohokoukai/kyouikujoyouhou.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F115110105055
学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		134人	127人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	66人	65人	
	第Ⅱ区分	43人	38人	
	第Ⅲ区分	25人	24人	
家計急変による支援対象者（年間）				一人
合計（年間）				142人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	一人		
GPA等が下位4分の1	一人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	1人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。